

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education

JSiSE

発行日 2002年 9月28日
発行所 教育システム情報学会
発行者 岡本敏雄
〒661-8520 尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内
☎06-4961-6507 FAX06-4961-6508
<http://www.jsise.org/>
E-mail:secretariat@jsise.org

ニュース・レター No.119



教育システム情報学会第27回全国大会を終えて

実行委員長 伊東 幸宏（静岡大学）

2002年8月29日・30日、静岡大学情報学部にて教育システム情報学会第27回全国大会を開催させていただきました。両日にわたり、450人を越える（開催校招待客、企業展示、スタッフ等を含む）ご参加をいただき、大変充実した大会になったのではないかと存じます。

今回から大会運営のシステムが変わり、企画委員会で企画を練っていただき、それを受けて実行委員会が大会を運営することとなりました。また大会の運営にあたって、学会事務局の皆様にも多大なご協力を賜りました。微力ながら大会を無事運営することができましたのも、企画委員会、事務局の皆様のお力添えによるものです。また、教育システム情報学会東海支部からも多くの方が実行委員会に加わり、大会運営にご貢献いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今大会では、「ユビキタス情報社会への挑戦～新しい教育パラダイムの構築を目指して～」のテーマのもと、講演、パネル討論会、企画セッション、一般セッション、ポスター・デモセッションを企画いたしました。また情報教育セミナー、e-learning シンポジウムも同時開催され、いずれも大変充実した内容で、今後の教育システムを考える上でとても示唆に富んでいたと思います。特に、岡本会長の基調講演「『教育の情報化』再先進国への道程～教育システム情報学会の果たす役割と機能～」では、広い視野で我々教育システム研究者の目指すべき方向を総括していただき、刺激を受けられた方も多かったのではないのでしょうか。また西阪昇氏（文部科学省）からいただいた特別講演「大学改革と科研費」は、変革期を迎える大学のこれからの行き方を考えるにあたり、大変有益な示唆に富んだものであったと思います。いずれの講演も、会場に溢れるばかりのご参加を頂き、聴衆の熱気でエアコンも十分に効かなかった？ようです。皆様にはご迷惑をかけたかと存じますが、この場を借りてお詫びを申し上げます。パネル討論会「ユビキタス学習環境の展開」、「同期・非同同期コミュニケーションシステムの教育利用の新しい展開」でも活発なご討論を頂きました。後者ではサイバー討論会という意欲的な企画もございました。

また、懇親会にも150名近いご参加をいただき、会場での議論を継続して深めていただくと同時に、親交も深めていただけたと思います。

本大会でも、多くの企業から展示（9社）・広告掲載（6社）という形でご協力していただき、深く御礼を申し上げます。最後に、次回茨城大学での全国大会も、より充実した大会になりますことを願って、結びといたします。

第 27 回 JSiSE 全国大会、地元紙に掲載されました。

教育システム情報学会第 27 回全国大会の 29 日の様子が、8 月 30 日付け中日新聞の 16 面と静岡新聞の 19 面に紹介されました。岡本会長の基調講演で参加者の方々の熱心に聴講されている写真が掲載されました。

2002 年 8 月 30 日付け中日新聞 16 面の県内版より



教育システム情報学会第 28 回通常総会報告

日 時：2002 年 8 月 29 日（木）13：30～14：00

場 所：静岡大学

出席者：198 名（委任状 130 名を含む）で本会は成立することを確認した。

第 1 号議案

2001 年度活動報告（事務局長 山本）

会員数、運営活動、事業活動、支部活動について、山本事務局長より報告があり承認された。

2002 年 3 月 31 日現在の会員数は 1062 名（1 年間で 46 名の増加）

第 2 号議案

1. 2001 年度決算報告（会計担当理事 大槻理事）

通常会計、事業会計、貸借対照表について次のとおり、大槻理事より報告があり承認された。

通常会計

(1) 収入の部

（単位：円）

科 目	2001 年度予算	2001 年度決算	増 減	備 考
前年度繰越金	1,285,017	1,285,017	0	
1. 入会金	80,000	81,000	1,000	
2. 会費	(6,000,000)	(6,498,900)	(498,900)	
正会員	5,500,000	5,818,900	318,900	
準会員	80,000	280,000	200,000	
維持会員	400,000	400,000	0	
特殊会員	20,000	0	20,000	
3. 資料販売等	(2,500,000)	(2,937,400)	(437,400)	
研究報告	500,000	675,800	175,800	年間購読料
学会誌	2,000,000	2,261,600	261,600	
4. 広告収入	210,000	245,250	35,250	データバシフィック他
5. その他	200,000	836,458	636,458	コナミ寄付(500,000) JSiSE ハンドブック (226,860) 受取利息(325 含む)
合 計	10,275,017	11,884,025	1,609,008	

(2) 支出の部

（単位：円）

科 目	2001 年度予算	2001 年度決算	増 減	備 考
1. 印刷費	(6,000,000)	(5,703,080)	(296,920)	
学会誌合計	3,900,000	3,979,258	79,258	(内別刷 505,785)
ニュースレター合計	750,000	566,580	183,420	
研究報告書合計	750,000	413,542	336,458	
その他合計	600,000	743,700	143,700	
その他印刷費				選挙等, 事務局変更
封筒印刷費				JSiSE ハンドブック (226,860) 会員名簿(277,200)
2. 通信費	1,400,000	1,585,382	185,382	発送費含
3. 会議費	200,000	298,928	98,928	
4. 旅費	200,000	235,830	35,830	
5. 人件費	1,800,000	1,916,800	116,800	
6. 消耗品費	200,000	287,942	87,942	事務用品費含
7. 支部支援費	60,000	(480,000)	420,000	
研究部会補助金		60,000		3 支部 × 20,000
		120,000		6 部会 × 20,000
		300,000		3 委員会支援費
8. その他	180,000	23,380	156,620	
9. 予備費	235,017	0	235,017	
合 計	10,275,017	10,531,342	256,325	
当期末処分剰余金 (内当期剰余金)		1,352,683 (67,666)	1,352,683	

事業会計

(1) 収入の部

(単位：円)

科 目	2001 年度予算	2001 年度決算	増 減	備 考
1. 前年度繰越金	341,261	341,261	0	
2. 全国大会		4,831,488	4,831,488	
3. 企画セミナー				
4. その他		67	67	受取利息
合 計	341,261	5,172,816	4,831,555	

(2) 支出の部

(単位：円)

科 目	2001 年度予算	2001 年度決算	増 減	備 考
1. 全国大会		3,819,602	3,819,602	
2. 企画セミナー				
3. 予備費	341,261	0	341,261	
合 計	341,261	3,819,602	3,478,341	

(3) 剰余金

前年度繰越金	341,261		
今年度未処分剰余金	1,011,953		
当期末処分剰余金	1,353,214		

貸借対照表

(単位：円)

普通預金(麹町) (1325993)	46,440	前受金 未払金		371,000 973,662
普通預金(麹町) (2132303)	1,415,814	負債合計		1,344,662
普通預金(みなと) (1514304)	1,430,214	基本金		4,237,205
郵便振替 (8-709632)	1,298,120	別途積立金	通常 事業	0 200,000
郵便定期(基本財産)	4,237,000	当期末処分剰 余金	通常(前期分)	1,285,017
現金(基本財産)	205		(当期分)	67,666
立替金	0		事業(前期分)	341,261
現金	59,971		(当期分)	1,011,953
			資本合計	7,143,102
資産合計	8,487,764		資本負債合計	8,487,764

2. 2001 年度監査報告(監事 今榮、小荒井監事)

2001 年度監査報告について、小荒井監事より監査報告があり承認された。

3. 剰余金処分案(会計担当理事 大槻理事)

剰余金の処分案について次のとおり大槻理事より提案があり承認された。

(単位：円)

科 目	合 計	通常会計	事業会計
前期繰越剰余金	1,626,278	1,285,017	341,261
当期剰余金	1,079,619	67,666	1,011,953
当期末処分剰余金(合計)	2,705,897	1,352,683	1,353,214

これを下記のとおり処分します。

(単位：円)

科 目	合 計	通常会計	事業会計
別途積立金	0	0	0
次期繰越剰余金	2,705,897	1,352,683	1,353,214
合 計	2,705,897	1,352,683	1,353,214

上記処分の結果、2002 年度当初の通常会計・事業会計の前期繰越金、別途積立金は下記ようになります。

(単位：円)

科 目	合 計	通常会計	事業会計
前期繰越金	2,705,897	1,352,683	1,353,214
別途積立金	0	0	0
合 計	2,705,897	1,352,683	1,353,214

第3号議案

2002年度活動計画案(事務局長 山本)
 通常総会、理事会・評議会、研究部会、ニューズレターの発行、学会誌の発行、英文誌の発行、大会企画委員会、情報教育特別委員会、e-ラーニング技術委員会、支部活動について、山本事務局長より報告があり承認された。

第4号議案

2002年度予算案(会計担当理事 大槻理事)
 通常会計予算案、事業会計予算案について次のとおり大槻理事から提案がありこのとおり承認された。

通常会計

(1) 収入の部

(単位:円)

科目	2001年度予算	2001年度決算	2002年度予算	備考
前年度繰越金	1,285,017	1,285,017	1,352,683	
1. 入会金	80,000	81,000	80,000	
2. 会費	(6,000,000)	(6,498,900)	(6,450,000)	
正会員	5,500,000	5,818,900	5,800,000	
準会員	80,000	280,000	250,000	
維持会員	400,000	400,000	400,000	
特殊会員	20,000	0	0	
3. 資料販売等	(2,500,000)	(2,937,400)	(2,900,000)	
研究報告	500,000	675,800	650,000	年間購読料
学会誌	2,000,000	2,261,600	2,225,000	
4. 広告収入	210,000	245,250	250,000	
5. その他	200,000	836,458	300,000	寄付金
合計	10,275,017	11,884,025	11,332,683	

(2) 支出の部

(単位:円)

科目	2001年度予算	2001年度決算	2002年度予算	備考
1. 印刷費	(6,000,000)	(5,703,080)	(4,520,000)	
学会誌	3,900,000	3,979,258	2,400,000	600,000×4回
英文誌			800,000	800,000×1回
ニューズレター	750,000	566,580	360,000	60,000×6回
研究報告書	750,000	413,542	360,000	60,000×6回
JSiSE名簿			500,000	
その他	600,000	743,700	100,000	封筒印刷など
2. 通信費	1,400,000	1,585,382	2,000,000	発送費含
3. 会議費	200,000	298,928	400,000	
4. 旅費	200,000	235,830	400,000	
5. 人件費	1,800,000	1,916,800	2,500,000	
6. 消耗品費	200,000	287,942	300,000	事務用品費含
7. 支援費	60,000	(480,000)	(480,000)	
支部		60,000	60,000	20,000×3
研究部会		120,000	120,000	20,000×6
委員会		300,000	300,000	100,000×3
8. その他	180,000	23,380	25,000	支払手数料など
9. 予備費	235,017	0	707,683	
合計	10,275,017	10,531,342	11,332,683	

事業会計

(1) 収入の部

(単位:円)

科目	2001年度予算	2001年度決算	2002年度予算	備考
1. 前年度繰越金	341,261	341,261	1,353,214	
2. 全国大会		4,831,488		
3. 企画セミナー				
4. その他		67		受取利息
合計	341,261	5,172,816	1,353,214	

(2) 支出の部

(単位:円)

科目	2001年度予算	2001年度決算	2002年度予算	備考
1. 全国大会		3,819,602		
2. 企画セミナー				
3. 予備費	341,261	0	1,353,214	
合計	341,261	3,819,602	1,353,214	

第 5 回 論文賞

平成 14 年度の論文賞の受賞者の発表が第 28 回通常総会の席上行われ、表彰状が手渡されました。本年度の対象となった論文は Vol.17, No.1(2000 年度春号)から Vol.18, No.3・4(2001 年度秋・冬号)に掲載された 2 年間の【原著論文(ショートノート含む)】です。

【原著論文】学習者の反応を即時に活かす一斉授業用意思決定支援システムの実現と評価
《中山洋、松田稔樹》(Vol.17-No.02,夏)

本論文は、演習問題に対する学習者の解答の正誤や授業の理解度に対するアンケートの回答を授業中にリアルタイムで集計・表示する「レスポンスアナライザー」に、ルールベースの推論機構を追加することで、学習者に対して行うべき助言の候補を教師に提供する一種の「エキスパートシステム」を実現している。周密な 2 段階の実験計画によりシステムの有効性が示されており、システムの有効性には十分な信頼性がある。学習者の個別対応や教師への対応が柔軟に行えれば、単に、授業活動だけでなく教師養成における授業訓練のシステムとしての活用も挙げられる。基礎的であるが応用性とんんでいること及び今後のシステムのモデルとして示唆する要因を多く持っている。

【原著論文】School Based Curriculum に基づく遠隔教師研修システムの構築
《関一也、井上久祥、松居辰則、岡本敏雄》(Vol.17-No.03,秋)

本研究は WWW ベースの遠隔教師研修システム Rapsody を構築している。まず、本論文では School Based Curriculum に基づいた遠隔教師研修モデルを提案している。このモデルは遠隔教師研修を体系的に設計する際の指針として有用である。また、複数の研修プログラム開発者による大規模な研修共同開発をあらかじめ想定している点も実用上意義がある。Rapsody は VOD、Web 教材、教育実践事例 DB、学習ツール、学習者間コミュニケーション支援など多様なメディアを含んだ包括的な遠隔教師研修システムであり、現時点における e-learning 環境としてはよく整備されている部類に入る。Rapsody にユニークな点としては、学習者の自己学習を支援するために、システムが学習者の研究履歴を利用して、次に行う研修の候補を提案する機能がある。さらに研修プログラムの作成を行うためのツールも用意されている。教師教育に e-learning を適用していくことは、今後発展することが予想され、その方向性を示すものとしても評価できる。



第 90 回研究会のお知らせ

CAI 研究部会 (部会長 / 黒瀬能幸)

開催日時 : 平成 14 年 10 月 5 日 (土) 13 時から
発表会終了後簡単な懇親会を予定しています。

開催場所 : 摂南大学 (寝屋川キャンパス)

プログラム : 発表時間 20 分 , 質疑時間 5 分

- 1 . 献立作成シミュレーションを用いた食品管理実習におけるフィードバック効果の考察
松永公廣 (摂南大学) 深津智恵美 , 森田 薫 (園田学園女子大学) , 森永理恵子 (カテナ)
西端律子 , 前迫孝憲 , 菅井勝雄 (大阪大学)
- 2 . IT 研修のための Web-CAI の開発
高橋参吉 , 岡本一祥 (大阪府立工業高等専門学校)
- 3 . WWW を利用した統合型漢字学習環境の構築
林 敏浩 , 林田行雄 (佐賀大学)
- 4 . 英作文における語句選択を支援する用例マイニングツールの構築
三好康夫 (徳島大学大学院工学研究科) , 越智洋司 (徳島大学工学部) , 岡本 竜 (高知大学理学部) ,
矢野米雄 (徳島大学工学部)
- 5 . CAI 教材作成と修正による評価活動の分析
宮地 功 , 辻村忠幸 (岡山理科大学)
- 6 . コ・メディカル学生に対する三次元動画解析データを用いた CAI の開発
金井秀作 , 沖 貞明 , 大塚 彰 (広島県立保健福祉大学理学療法学科) , 黒瀬能幸 (近畿大学工学部
情報システム工学科)
- 7 . 逆ポーランド記法を用いたアルゴリズム学習支援システムのための基礎実験
岡村修司 , 松島勇雄 (広島商船高等専門学校) , 望月 要 , 大西 仁 (メディア教育開発センター)
田中一基 , 黒瀬能幸 (近畿大学) , 矢野米雄 (徳島大学)

情報教育特別委員会より

「情報教育シンポジュームの開催」予定のお知らせ

2002 年 10 月 26 日 (土) 13 : 00 より、龍谷大学 (京都) にて

【基調講演】

講師 : 西之園晴夫教授 (仏教大学)

演題 : 「情報、学習そして知識創造科目の開発」

第2回 e-Learning 技術委員会・企業内教育研究部会 合同シンポジウムが開かれます

先にニューズレターでお知らせ致しましたように、東京電機大学の神田校舎をお借りして以下の通り、第2回 e-Learning 技術委員会・企業内教育研究部会合同シンポジウムを開催致します。今回のシンポジウムは二部構成で企画し、第一部はアメリカの高等教育での e-Learning 推進をする NPO 法人 Teachers International Exchange と交流し、各国から集まった教育関係者の方とシンポジウムを致します。第二部では4時間を掛けて、e-Learning を普及させるための大きな課題について、専門家の意見をお聞きし、フロアとの積極的な意見交流を図って参ります。是非、ご参加下さいませようご案内申し上げます。

日時：10月18日 金曜日 10:00～18:00
場所：東京電機大学 神田校舎 11号館 17階 大会議室
地図 http://www.dendai.ac.jp/d2_guide/d2_9a.html

第一部 シンポジウム 「アメリカでの高等教育」
NPO法人 Teachers International Exchange と交流開催
10:00～12:30

トピック1：アメリカの大学におけるオンライン学習とこれからの大学のあり方
トピック2：オンライン学習インストラクター（教員養成）プログラムの成功事例
トピック3：テクノロジーを使った学校教育全体についてのディスカッション
- パネルディスカッション -

通訳により日本語のプレゼン内容翻訳と日本語での質問ができます。

第二部 シンポジウム 実用期の e-Learning を考える 14:00～18:00
(1) シンポジウム「e-Learning はメリットがあるか」 14:10～15:50
司会：NTTラーニングシステムズ株式会社 企画調査室長 小松 秀園
パネラー：メディア教育開発センター 教授 吉田 文
(株)ビジネスブレイクスルー 取締役 伊藤泰史
東北大学 教授 渡部信一
日立製作所 e-ラーニングソリューションセンター 西岡佳津子

プレゼンテーション及び議論で出てくるキーワード

- ・狙いはコストダウンと社会人市場
- ・場所と時間の制限
- ・教育の Quality
- ・視覚化のメリット
- ・同期型のメリット、非同期型のメリット
- ・トラフィック環境
- ・デメリットの対応策
- ・ROI
- ・コンテンツの寿命
- ・コンテンツのコスト（費用対効果を出す）
- ・EPSS活用の違い
- ・社会人大学院に求められること

(2) シンポジウム「e-Learning で満足するか」 14:10～15:50
司会：NTTアドバンステクノロジー(株) 関連企業本部 技師長 二瓶文博
パネラー：大谷女子大学 教授 大倉孝昭
産業能率大学 経営開発本部 古賀暁彦
東京大学 助教授 山内祐平
NTT-X 事業部長 仲林 清

プレゼンテーション及び議論で出てくるキーワード

- ・メンタリング
- ・コーチング
- ・コンテンツ
- ・業務への貢献
- ・ブランディング
- ・e-Learning の評価
- ・企業への期待
- ・個人の満足
- ・カーク
- ・パトリックの評価理論

第 92 回研究会発表募集のご案内

インターネットとその応用研究部会（部会長 / 横山節雄）

インターネットとその応用研究部会を以下の要領で実施したいと思います。多数の研究発表をお待ちしていますので、ふるってご参加をお願いします。

1. 日 時 2002年11月30日（土）午後1時から
2. 開催会場 東京学芸大学 S-310教室(マルチメディア教室)
3. 発表申込締切 2002年10月19日（土）タイトル、発表者を申込先にメールで申し込む。
4. 予稿締切 2002年11月15日（金）
5. 発表申込先 東京学芸大学（横山節雄）E-mail : yokoyama@u-gakugei.ac.jpまで。
申し込みがあった順に原稿依頼します。
6. 原稿提出先 JSiSE本部事務局へ。

交通案内 中央線武蔵小金井駅北口下車（特別快速の場合は三鷹で快速に乗り換え）
京王バス小平団地行5分・学芸大正門前下車

連絡先

横山節雄 〒184-8501 小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学情報処理センター
042-329-7474
yokoyama@u-gakugei.ac.jp

新入会員の紹介

新入会員（敬称略）

JSiSE-A0201926	周 欣欣	名古屋文理大学	正会員
JSiSE-A0201927	藤原宏記	高知大学大学院	準会員
JSiSE-A0201928	石崎忠純	東京情報大学	準会員
JSiSE-A0201929	田中康正	鎌倉女子大学	正会員
JSiSE-A0201930	山田方根	筑波大学	準会員
JSiSE-A0201931	阿部博信	三菱電機株式会社	正会員
JSiSE-A0201932	金子周司	京都大学大学院	正会員
JSiSE-A0201933	永井正洋	東京工業大学大学院	準会員
JSiSE-A0201934	佐藤考司	(学)日本赤十字秋田短期大学	正会員
JSiSE-A0201935	孫 曉萌	京都大学大学院	準会員
JSiSE-A0201936	山田方根	筑波大学大学院	準会員
JSiSE-A0201937	辻 靖彦	東京工業大学	準会員
JSiSE-A0201938	難波和明	東京理科大学	正会員
JSiSE-A0201939	畦地真太郎	北海道東海大学	正会員
JSiSE-A0201940	林 秀行	秀明大学八千代中学校	正会員
JSiSE-A0201941	宮奈 剛	早稲田大学大学院	準会員
JSiSE-A0201942	小林和之	名古屋大学	正会員
JSiSE-A0201943	内田浩樹	鳥取環境大学	正会員
JSiSE-A0201944	宮川裕之	文教大学	正会員
JSiSE-A0201945	田淵隆明		正会員

2002年度新入会員（2002年7月24日～9月17日）

第 93 回研究会発表募集のご案内

言語・知識処理応用研究部会（部会長 / 伊藤紘二）

言語・知識処理応用研究部会は、学習をコミュニケーションと見る視点から、インターフェイスも含めて、従来の形にとらわれない言語教育、あるいは、言語や知識の取り扱いを取り入れた学習・教育支援システムの研究を、いろいろな分野から学びながら、活性化していくことを目指しています。昨年来、既に2回の研究会を持ちましたが、2002年度も下記により、研究会を開催します。つきましては、奮ってご応募くださるよう、お願い申し上げます。

日 時：2002年12月21日（土）10:30～17:00（時間は予定です）

会 場：上智大学（東京：四ツ谷）

内 容：公募研究発表

言語処理，知識処理，知的インターフェイスに関するチュートリアル
実践的研究の依頼講演
ディスカッション

なお、研究会終了後、懇親会を予定しています。こちら是非ご参加下さい（会費 3,000 円 程度の予定）。

問合先（担当幹事）：田村恭久（上智大学工学部機械工学科）

E-mail: ytamura@me.sophia.ac.jp

研究発表募集

申込締切：2002年11月1日（金）

原稿締切：2002年12月2日（月）

（原稿は2ページから6ページの偶数ページで）

下記のフォームで担当幹事までメールでお申し込みください。

発表タイトル：

著者・所属：

発表概要（数行程度）

著者連絡先：

原稿ページ数（2, 4, 6のいずれか）：

とくに、この部会では、従来の形態の研究会より一歩ふみこんだ研究者間の交流の場の形成を最大の主眼にしております。

詳しくは、<http://www.itlb.te.noda.sut.ac.jp/~itoh/nlkp/nlkp.html> をご覧ください（JSiSE のホームページからもリンクされています）。

上記ページにもご案内しておりますように、部会員相互の議論の場として CoAFAQ (Collaboratively Answered Frequently Asked Questions) を運用しています。参加される方は、上記ページにリンクされた登録ページで、メーリングリストに登録して頂くか、あるいは下記宛、メールでお申込み下さい。登録された方には、CoAFAQ の URL をお知らせします。

itoh@te.noda.sut.ac.jp

会費未納の方にご請求します。

会費の前納にご協力ください。

今回、未納の方のみに請求書と振込用紙を同封しましたので、ご納入のほどよろしくお願い申し上げます。請求書発行時（約1～2週間前）の行き違いについてはご容赦ください。また、不明な点についてはまことにお手数ですが、事務局へメールでお問い合わせくだされば幸いです。

問い合わせ

教育システム情報学会事務局

〒661-8620 尼崎市南塚口町7-29-1

園田学園女子大学情報教育センター内

E-mail: secretariat@jsise.org

同封の振込用紙をご利用ください。

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡下さい。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

本案内はWWW

(<http://www.fu.is.saga-u.ac.jp/~hayashijisise/conf.htm>) で見ることできます。

新着情報 3 件

ITHET'03 : 4th International Conference on Information Technology

Based Higher Education and Training

開催日程:2003年6月7-9日

開催地:Marrakesh, Morocco

論文応募締切:未定

URL: <http://www.emi.ac.ma/ithet03/>

e-mail: ithet03@emi.ac.ma

HCI 2003 : 10th International Conference on Human-Computer Interaction

開催日程:2003年6月22-27日

開催地:Crete, Greece

論文応募締切:2002年10月15日

URL: <http://www.hcii2003.gr/>

e-mail: info@hcii2003.gr

CSCL 2003 : Computer Supported Collaborative Learning

開催日程:2003年6月14-18日

開催地:Bergen, Norway

論文応募締切:2002年12月7日

URL: <http://www.intermedia.uib.no/cscl/>

e-mail: ogata@is.tokushima-u.ac.jp

国際会議案内文責 松原 行宏 (香川大学)

E-mail : matsubar@eng.kagawa-u.ac.jp

再掲載情報 6 件

AAAI Spring Symposium 2003: Natural Language Generation in Spoken and Written Dialogue

開催日程:2003年3月24-26日

開催地:Palo Alto, CA, USA

論文応募締切:2002年10月4日

URL: <http://www.cs.niu.edu/~nlgdial/>

e-mail: callaway@itc.it

SITE 2003: Annual conference of the Society for Information

Technology and Teacher Education

開催日程:2003年3月24-29日

主催:AAACE

開催地:Albuquerque, New Mexico, USA

論文応募締切:2002年10月22日

URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>

e-mail: conf@aace.org

UM 2003: 9th International Conference on User Modeling

開催日程:2003年6月22-26日

開催地:University of Pittsburgh Conference Center, Johnstown, Pennsylvania, USA

論文応募締切:2002年11月18日

URL: <http://www2.sis.pitt.edu/~um2003/>

e-mail: peterb@pitt.edu

ED-MEDIA 2003: World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunications

開催日程:2003年6月23-28日

主催:AAACE

開催地:Honolulu, Hawaii, USA

論文応募締切:未定

URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>

e-mail: conf@aace.org

IEA 2003: The XVth Triennial Congress of the International Ergonomics Association

開催日程:2003年8月24-29日

主催:IEA

開催地:Seoul, Korea

論文応募締切:2002年10月31日

URL: <http://www.iea2003.org/>

e-mail: info@iea2003.org

E-Learn 2003: World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education

開催日程:2003年11月7-11日

主催:AAACE

開催地:Phoenix, Arizona, USA

論文応募締切:未定

URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>

e-mail: conf@aace.org

第 89 回研究報告

【マルチメディア教材研究部会】

研究報告書購入ご希望の方は、日本学会事務センター事業部・海外部（学協会刊行物頒布業務）まで、TEL（03-5814-5811）、FAX（03-5814-5822）Eメール（sub@bcasj.or.jp）でお申し込みください。

1部1,300円（送料共）です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読（購読料は送料込みで年間4,000円）をご希望の方は JSiSE 事務局 TEL（06-4961-6507）、Eメール（secretariat@jsise.org）までご連絡ください（年間6回）。この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします（教育システム情報学会研究会委員会担当 / 伊藤紘二）。

.....

- ・開催日：2002年7月6日
- ・場 所：岡山理科大学

1．経済学へのマルチメディア導入による IT 教育改革

法政大学教学改革の事例研究

後藤公彦，酒井義隆（法政大学工学部）

政大学は小金井キャンパスに6階建ての校舎を2000年に新築し、コンピュータ、OHPを含むマルチメディアを講義教室にインストールした。これにより、時代のニーズに合ったマルチメディア教育が可能となり、オンライン・コンピュータテスト等のコンピュータ教育実験を実施している。その効果と将来の方向付けの成果について報告した。

2．1人でできる安・即・易のE-Learning 支援システムの開発

大倉孝昭（大谷女子大学）

本年4月から、大講義室で行う、講義科目(150人)において、欠席者に対する授業フォローを目的に、生の授業終了直後にe-learningのコンテンツを配信することができるよう、支援システムを開発し運用を開始した。今回は、対象にした授業モデルとe-learningのためのコンポーネントの開発に関して報告した。実践しての学生の反応などについて報告した。

3．e-learning のための教材開発と学習支援システム

沈海農，神谷勇毅，仲野宇宙，蟹江保，磯本征雄（名古屋市立大学大学院）

近年、ブロードバンドによる情報配信サービスが開始され、マルチメディア技術とインターネットを活用したe-learningが現実味を帯びてきた。e-learningにおいて、インターネットは時間・空間の制約を緩和し、マルチメディア技術は高品質で多様な学習教材の提供を可能にする。学習者から見ると、可能な時間帯に望む内容を自分の進捗度で学習できるパーソナルな学習支援方策として、これまでになかった効果的な学習計画を立てることが可能になった。そうしたe-Learningの実践にあたり、教材開発の低コスト化、共同開発組織の同塑性、汎用性、可搬性などへの配慮が必要である。著者らは、こうした配慮の下に進めているPower Point、Visual-BASIC、White boardなど汎用応用ソフトウェアを使ったマルチメディア教材開発と、Webページ(<http://tsplaza.jp>)におけるハイパーテキストのリンク構成について報告した。

4．伝統芸能を構成するマルチメディア要素の抽出と再統合

北川博美（中部学院大学短期大学部），磯本征雄（名古屋市立大学大学院）

現在のマルチメディア技術は、工学分野だけに限らず、広い分野の多彩なデジタル表現を可能にした。日本の伝統文化のデジタル保存もその応用分野の一つである。著者らは、日本の無形文化財のひとつである伝統芸能のデジタル化に取り組むにあたり、その芸能を構成する要素をマルチメディアデータとして抽出し、再構成してデジタル・コンテンツ化を行った。これによって、その芸能特有の魅力をより伝えることのできるコンテンツの作成を可能としたことに関して報告した。

5. 教え込み学習教授のためのPID制御の応用

村瀬 孝宏（中京短期大学），磯本征雄（名古屋市立大学大学院）

インターネットによる時間や距離的な制限の緩和によって個別学習の機会を増大させ、マルチメディアによる学習教材の高品質化は、能率のよい教授方略の可能性を広げつつある。こうした新技術を活用した教育にとって、学習形態や学習環境の大幅な見直しが可能となった。学習者が、演習問題を通して教え込み学習分野を効果的に覚えるCAIの数理モデルについて報告した。CAIシステムは、3つのパラメータ"P"、"T"、そして、"D"によってコントロールされる。"P"は、現在の学習者の理解度の比例成分を評価し、"T"は、過去における学習者の理解度の積分成分を評価し、"D"は、直近の学習者の理解度の微分成分を評価する。この学習者の理解度に応じた教授方略へのPID制御理論によるモデル化とマルチメディア技術による学習過程のつまづきチェックとその打開策によって、新時代に合った教育形態を整える一助とするための教授モデルに関して報告した。

6. 信州大学インターネット大学院におけるマルチメディア教材の利用と履修状況について

新村正明，不破泰，和崎克美，師玉康成，
中村八束，大下眞二郎（信州大学工学部）

信州大学大学院工学系研究科情報工学専攻においては、大学院修了に必要な単位を全てインターネットで取得できるようにしたインターネット大学院を2002年度より開校した。インターネット大

学院の仕組み自体は、Webのサーバ上に授業のコンテンツを置いただけの大変単純なものである。しかし、現実に大学院を運営するにあたっては、その根幹となる授業コンテンツの作成とそれらを支えるシステムの開発が不可欠である。さらに、学生の便を図る様々なシステムも必要である。情報工学専攻のインターネット大学院で用意したこれらコンテンツとシステムについて、および学習を始めた学生の状況について報告した。

7. 英文和訳の学習を支援するシステム STEJ3 の開発

宮地 功，下山寿継，田尾和規（岡山理科大学）

英文の構造を正確に知って和訳していく訓練をするために、英文和訳の学習を支援するシステムSTEJ3を開発している。STEJ3では、英文構造表現と模範解答構造表現を用いて、すべての模範解答例の中で学習者解答に最も近い適合模範解答を生成する。単語と構文要素単位について学習者解答と適合模範解答とを比較して、学習者解答を評価する。その評価結果を用いて添削を行い、誤り診断結果を説明し、誤りの内容に応じて解説する。STEJ3は和訳学習を支援するために、和訳が良くない場合、単語、文の種類、基本文型、構文を学習させるようにしている。実践してSTEJ3の評価方法と添削方法の妥当性、教授戦略の適切性について報告した。

（報告者：岡山理科大学総合情報学部情報科学科
宮地 功）

第 82 回 理事会・評議会 議事録

日 時：2002 年 8 月 29 日（木）12:00～13:20
 場 所：静岡大学城北キャンパス工学部大会議室
 出席者：理 事

岡本	磯本	小松	×赤堀	伊藤	大槻	×大下
×上月	×坂元	清水	菅井	竹内	対馬	永岡
永野	樋川	×溝口	×矢野	渡辺	山本	

委任状（坂元，溝口，矢野）

：監 事

今栄	小荒井
----	-----

：評議員

×家本	×石桁	×奥田	黒瀬	×向後	渋井	高橋
竹本	西野	平嶋	×福原	細井	松永	前迫
×三輪	×村本	山崎	×横山	吉田	米澤	

：事務局

山本

：その他

伊東 大会実行委員長

配布資料 1：JSiSE 第 82 回理事会・評議会 資料

配布資料 2：2002 年度論文賞対象論文

配布資料 3：総会メモ

回覧資料 1：新入会員リスト

第 81 回議事録の確認

- ・山本事務局長から議事録（配布資料 1 の pp.2-5）に関する説明があり，配布資料のとおり承認された．

- 1) 新入会員の承認
 - ・山本事務局長より，配布資料 1 の pp.6，回覧資料 1 に基づき説明があり，原案通り承認された．
 - ・会長から，当面は 1200 人を目標に会員数を増やすよう呼びかけて欲しいとの依頼があった．
- 2) 2002 年度予算案に関する件
 - ・大槻理事より，配布資料 1 の pp.7-8 に基づき，前回の理事会での意見を参考に修正された 2002 年度の通常会計，事業会計の提案があり，了解された．変更点は次の通り．
 - + 英文誌作成のために，人件費を 2,200,000 円から 2,500,000 円に増額する．
 - + 印刷費の中でニューズレタの印刷費を 300,000 円から 360,000 円に増額する．
 - + このことに伴って，予備費を 1,067,638 円から 707,638 円に減額する．
- 3) 論文賞に関する件
 - ・永野理事より，配布資料 1 の pp.9-10 に基づき，論文賞推薦の開票作業の報告と対象論文の提案があり原案どおり承認された．
 - + 対象論文は次の 2 件となった．（配布資料 2：2002 年度論文賞対象論文）
 - 【原著論文】学習者の反応を即時に活かす一斉授業用意思決定支援システムの実現と評価
《中山洋、松田稔樹》(Vol.17-No.02,夏)
 - 【原著論文】School Based Curriculum に基づく遠隔教師研修システムの構築
《関一也、井上久祥、松居辰則、岡本敏雄》(Vol.17-No.03,秋)

次ページへつづく

- + 岡本会長より、会長個人としては論文賞を辞退したいが、共著のメンバーにとっては名誉なことであるので原案に賛成させていただくとの趣旨の発言があった。なお、論文賞の表彰式については、会長と副会長とで行うこととした。
- 4) 次期開催校について
 - ・ 菅井理事より、次期開催校については前回の理事会の決定を受けて会長と相談し、配布資料 1 の pp.10 のとおり、茨城大学教育学部（本田敏明教授）で開催することになったとの提案があり承認された。
- 5) 各委員会からの審議事項及び報告事項
 - 研究会委員会
 - ・ 伊藤理事より、研究会委員会の開催を計画しているとの報告があった。
 - 企画委員会
 - ・ 渡辺理事より、来年度の JSiSE 国際ワークショップのテーマについて検討しているとの報告があった。
 - 編集委員会
 - ・ 磯本理事より、31 日に編集委員会を開催し 10 月分の論文誌について最終決定をするとの報告があった。
 - 英文誌編集委員会
 - ・ 磯本理事より、英文誌の編集作業が順調に進行中である旨の報告があった。
 - + 岡本会長より「英文誌の発行に全面的に力をいれて、新しい風を新しい器に入れたい。」との依頼があった。
 - 広報・WWW 委員会
 - ・ 対馬理事より、Web のサービスについて調査したい旨の報告があった。
 - 情報教育特別委員会
 - ・ 磯本評議員より、次の 3 点について報告があった。
 - + 情報教育セミナーを昨日（28 日）に実施した。
 - + 情報教育推進のための提言のまとめの作業が進行中であるが、学会の名前で提言を行いたい。
 - + 10 月 26 日に龍谷大学でシンポジウムを予定通り実施する。
 - e-learning 技術委員会
 - ・ 小松副会長（e-learning 技術委員長）より次の 2 点について報告があった。
 - + 10 月 18 日に予定通りシンポジウムを東京電機大学で開催する。e-learning で満足できるか、e-learning の離脱の問題をテーマとする。
 - + e-learning 技術委員会で、何をしたら世の中の役に立つのか、皆さんの知恵を集めて形にしたいと考えている。
- 6) その他
 - 「研究報告」の英文名について
 - ・ 事務局より英文名を決めてほしいとの要望があり、議論が伊藤理事を中心にあったが、伊藤理事の方で本日の議論をふまえて案を作成することになった。
 - + テクニカルレポート テクニカルという言葉について教育という視点が欠けるのではとの意見があった。
 - + JSiSE リサーチレポートなども候補にあがった。
 - 学会連合の連絡委員について
 - ・ 岡本会長より、教育工学関連の学会連合が新しくできるが、本学会より連絡委員を出す必要があり、その委員の選出は会長に一任してほしい旨の提案があり承認された。

以上